

留寿都高校だより

令和5年3月号

(令和5年3月23日発行)

TEL(0136)46-3376

FAX(0136)46-3386

令和4年度の終わりにあたって

北海道留寿都高等学校長 齋藤 譲一

春の訪れを少しずつ感じる中、3月1日に第69回卒業証書授与式を挙行し、4年生6名、3年生17名、合計23名の卒業生が本校を巣立っていきました。新型コロナウイルスの影響をまろに受けた世代ではありましたが、「相手を気づかうこと」、「与えられた環境の中で物事を進めるために知恵を絞ること」の大切さをどの世代よりも再認識した世代だと思っておりますので、何事も前向きにとらえ、たくましく生き抜いて欲しいと思っております。

さて、令和4年度も終わろうとしています。生徒の皆さんは令和4年度をどのように過ごしたでしょうか。うまくいったこと、うまくいかなかったこと、色々あったとは思いますが、大切なのはその積み重ねがあって「今」があると認識することです。卒業式の式辞でも述べましたが、人生は一日一日の積み重ねです。自分の夢を叶えたいなら夢につながる一日を積み重ねてください。4月から始まる新年度も頑張る留高生に期待しています。

最後に、保護者の皆様方を始め本校教育活動にご支援ご協力を賜りました留寿都村、関係各位、地域の方々へ心より感謝申し上げます。次年度も引き続き、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

高校生活のふり返りと卒業後の抱負



「3年間を振り返って」

3年 松浦 陽向

3年間の学校生活はとても短くあっという間に終わってしまいました。入学当時、私は怪我をして松葉杖での生活を送っていました。初めての環境、初めての寮生活なのでとても心配したことを覚えています。しかし、担任の先生やクラスの皆にたくさん助けられました。このクラスで3年間ともに勉強し、今まで知らなかったことをたくさん知り、経験することができ、先生方やクラスの皆さんのおかげで自分なりに成長をすることができました。3年間ありがとうございます。

この学校を卒業したら、自分の夢に向かって勉強に励み知識を蓄えたいと考えています。これを読んでいる後輩の皆さん、自分の夢に向かって頑張ってください。

「学校生活を振り返って」

4年 神原 小夏

初めは誰も知らないこの学校に入学して不安がなく、正直学校に行きたくないと思う日も沢山ありました。友達が出来てからは早く学校に行きたいと思える日も増えていきました。私達のクラス15人だったから行事なども楽しかったと感じるし、この学校に入学したからこそ私がなりたい職業について興味を持つことができました。もちろん嫌なこともありました。それも含めてこの学校に来て良かったと思います。4年間お世話になりました。



1年のふり返りと来年度の抱負



「4年生進級に向けて」

3年 石井 萌香

4年生に進級したら、介護福祉士になるための勉強をして学校生活最後の1年間に有意義に過ごしたいです。私は中学生の時、将来自分は何がしたいのか自分に何が向いているのかを考えていました。その時、困った人や不自由な人の役に立てる仕事がしたいと思い、留寿都高校に進学しました。4月からは、介護福祉士の資格取得のために勉強や施設での実習が長期であるので、そこで経験を積み、より人の役に立てるよう頑張ります。

「来年度頑張りたいこと」

2年 斉藤 宙

今年度は勉強や学校行事について昨年度よりも前向きに取り組めたと思います。勉強時間が極端に増えたというわけではないけれど、限られた時間の中で、自分が今なにをするべきなのかと考える機会が増えました。来年度は学校生活やテスト勉強も頑張りたいし、なにより、いよいよ進路を決定する年になるので、今までよりも優先順位を考えて行動できるようにしたいです。



「一年をふりかえって」

1年 小野寺 慧



昨年の四月、高校ではどのような出来事が待っているのかと考えながらやってきた頃のことは、今でも鮮明に覚えています。この一年間の中で、私の心に残っていることは三つあります。一つ目は、初めての技術競技大会です。農業クラブ三大会の一つであるこの大会は、今まで知らなかった農業に関する新たな見聞や発見を得ることができた大会でした。二つ目は、学校での様々な学習です。今まで小中学校で学んできた馴染み深い教科だけではなく、高校で初めて学ぶ教科や、農業や福祉の高校ならではの教科もあり、日々の学習一つ一つが新しい発見の場となりました。三つ目は、高校で初めての旅行行事です。いつも過ごしている学校を離れて遠くの土地へ行き、普段では体験できない数多くのことを体験することができました。その他にも、学校祭や先輩方の実習報告会など、たくさんの新しい発見と思い出がこもった一年間でした。来年度からは二年生としてたくさんの新しいことが待っています。そこから生まれる新たな発見と思い出の数々を大事にしていきたいです。

第69回卒業証書授与式



生徒会農業クラブ「リーダー研修会」

3月7日（火）、8日（水）の2日間でリーダー研修会が開催されました。参加した生農会監査以西生芽君（2年）、会計菅井楓花さん（2年）から、『校長先生からリーダーとなる素質や能力について、講話をしていただき、これからの留寿都高校の活動や方針についてじっくりメンバーを話し合うことができました。』と感想が述べられました。



4年生激励会 & 福祉コース講習会

2月28日（火）、4年生に進級する6名の生徒への激励会が行われました。校長先生や生農会会長からの激励の言葉や、進級生代表として3年生佐藤夏希さんから「進級する6人で支え合い、国家資格取得に向けてこれからの実習や勉強に励んでいきたい」と決意表明がありました。また3月には登校学習があり、本格的に専門的な学習をスタートしました。

国際交流部活動報告⑥「兵庫県養父市 ALT との交流」

今回は兵庫県養父（やぶ）教育委員会の協力のもと、オンラインでの国際交流を実施しました。参加した小川さんと富澤くんは、英語で自己紹介をし、そのあと留寿都村や留寿都高校についてのプレゼンを行いました。ALTの方々はアメリカ合衆国、オーストラリア、フィリピンの出身者で、各国の様子をわかりやすい英語を使いながら教えてくれました。部員の2名から『緊張したが、留寿都村と学校の魅力を伝えることができた。他の国の方と会話することでコミュニケーションや日本との違いなどの特徴を見つけることができた。わかる単語もでてきて勉強に成果を感じる事ができた。これからも交流したいので英語を喋れるようになりたい。』と感想が述べられました。来年度も多くの行事を企画し、国際理解を深めていきます。



スポーツ賞受賞

3月13日（月）留寿都村スポーツ協会主催令和4年度スポーツ賞を本校卓球部（女子）とバドミントン部（女子）が受賞しました。



4月の行事予定	
9日（日）	開寮
10日（月）	着任式、前期始業式、服装頭髪検査 大掃除、式場設営、午前授業
11日（火）	入学式、入寮式、PTA・定振会総会 午前授業
12日（水）	新入生オリエンテーション・農業クラブ 三大行事説明会
13日（木）	証明写真撮影、身体測定、委員会（農業 クラブ）
14日（金）	IH集会（電子機器関連）
19日（水）	1・4年内科検診
24日（月）	1年コース説明会
27日（木）	生徒会農業クラブ総会
28日（金）	授業参観（3時間授業）

離任者からの挨拶

齋藤 譲一 校長

3年間ではありましたが、心優しい生徒や教職員に囲まれながら、そして、保護者や地域の皆様方よりご支援ご協力いただきながら、充実した日々を過ごすことができました。

異動に際し、全国唯一の農業福祉科を有する留寿都高校の教育活動には大きな魅力と可能性があることや留寿都高校に勤務した3年間が私の大きな財産となることを改めて実感しています。

私の赴任先は町立の土幌高校ですが、今後も留寿都高校の躍進を応援するとともに留寿都高校に負けない温かい学校づくりをしていきたいと思っております。皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

小川 浩由 教頭

留寿都高校で教頭を務めさせていただく中で、留寿都村の皆さんが子供たちを温かく包み込むように、きめ細かくサポートをしてくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。このような恵まれた最高の環境で、3年間一緒に仕事をさせていただけたことは、とても幸せでした。ありがとうございます。

次に赴任する別海高校は、普通科、酪農経営科、農業特別専攻科を設置する特色ある学校です。遙か東の果てにある酪農と漁業の町から、留寿都高校と皆さまの益々のご活躍を心から願っています。3年間ありがとうございました。

上野 健一 教諭

赴任から5年間、HR担任として4年間務めさせていただいたからこそ、生徒一人一人が自分の居場所を自分のペースで見出すことができる、そんな留寿都高校の包容力を実感できたと思います。

農場には在来種であるエゾオオマルハナバチがやってくる自然の豊かさ。農場での実習中に福祉コースの生徒が車いす実習で通りかかる留寿都高校ならではの風景。入試が延期になり、家の窓がすべて埋まった猛吹雪。清澄寮でのカメムシ捕獲作戦。楽しかったことから辛かったことまで、本当に貴重な体験でした。スキー授業、そば打ち、農産物販売の常連のお客さん、生徒とともに花を植えてくださった皆さん、寮を支えてくださった歴代の皆さん、いつも急患の生徒を助けてくださった診療所の方々。生徒の海外実習のためにご尽力いただいた教育委員会や役場のみなさん。生徒だけでなく私も本当に元気づけていただきました。

次は岩見沢の大きな学校に移りますが、生徒を理解することの難しさと、生徒を信頼することの大切さを忘れずに、次の一歩を踏み出したいと思います。

本当に5年間、ありがとうございました。

法邑 巨祐 教諭

留寿都高校の生徒の皆さん、保護者や地域の皆さん、教職員の皆さん、3年間大変お世話になりました。

大学を卒業して、夢であった教員としての最初の一步を、留寿都高校で踏ませていただけたことは、私にとって何よりも幸せなことでした。初めの頃は1年間だけというお話でしたが、居心地がよくて、気がつけば3年間働かせていただきました。至らぬ点も多い私を、皆さんは暖かく受け入れてくださり、人生で大切にしたいと思える多くの心を学びました。

この度、新規採用によって、オホーツク管内にある佐呂間高校に赴任となりますが、留寿都高校で学んだ多くのことや、皆さんとの思い出を胸に、頑張っていきたいと思っております。留寿都高校での皆さんとのご縁は忘れません。ありがとうございました。

事務より

毎月末日が諸納金等の口座引き落とし日です。余裕を持って5日前までには郵便局指定口座の残金等を確認し、入金していただきますようお願いいたします。

不明な点は事務部までご連絡ください。
（電話 0136-46-3376）



（右下より時計回り）齋藤校長・小川教頭・法邑教諭・上野教諭